

平成 10 年度イセエビ放流技術開発事業(抄録)

一ノ宮誠・天真正勝・山添喜教

将来のイセエビ人工種苗放流の可能性を考慮し、主にイセエビの初期生態を明らかにする目的で放流技術開発事業(基礎技術開発)を実施したので、その概要を報告する。なお、当事業の全体については平成 10 年度放流技術開発事業(基礎技術開発グループ)報告書を参照されたい。

プエルルス幼生及び稚エビコレクター調査

由岐町及び日和佐町地先においてコレクターによる採集調査を行った。由岐町については漁港の堤防周辺に 8 定点を設け、キンランタイプコレクター(目合い 1cm, 60cm×20cm×45cm, 体積 54000cm³ のタコカゴにキンラン 10 本を詰めたもの。)を各定点に 1 基ずつ設置した。日和佐町においてはキンランタイプコレクターを 6 基、また、テープタイプコレクター(長さ 500mm, 幅 5mm のフィルムを束ね、これを 300mm×500mm の基盤に取り付けたもの。)を 5 基設置した。両地区において、4~12 月の調査期間中にプエルルス幼生 28 個体, 初期稚エビ 3 個体を採集した。採集ピークは 7 月に 1 回観察されたが、採集個体数は平年の 1 割ほどであった。

潮流調査

プエルルス幼生の着底に与える潮流の影響を明らかにするため、由岐町地先において潮流調査を行った。その結果、プエルルス幼生の採集された定点周辺において潮流動の収れんが観察された。

飼育試験

コレクター調査により採集された一部の個体について、飼育試験を行った。その結果、オキアミ、ムラサキガイ、魚肉、配合飼料の 4 種の餌別による飼育試験において、稚エビの成長・生残に差異がみられた。本年度使用した餌の中では、ムラサキガイを与えたものが成長・生残ともに優れていることが観察された。また、体色についてはオキアミで飼育したものがイセエビ特有の赤色となった。

潜水によるプエルルス幼生及び稚エビの観察・採集調査

牟岐町地先において調査を行った。延べ 13 ヶ所を調査し、53 個体の稚エビを採集した。これまでの調査結果から、稚エビの生息場所を絞り込むことができた。稚エビの観察された場所はアラメ等の大型

海藻が生育している岩礁地帯で岩礁の斜面には，隠れ場所となる小穴等が多くみられた。

稚エビ標識放流調査

稚エビの移動，分布及び成長等を明らかにするため，平成 9 年 12 月 18 日，日和佐町地先において稚エビ 211 尾を標識放流し，追跡調査を行った。同群は平成 11 年 3 月 5 日までに 28 尾が再捕された。

標識稚エビ飼育試験

平成 7 年度から標識を装着した稚エビ 50 個体について飼育観察を行った。平成 11 年 1 月 18 日までに標識脱落 15 個体，へい死 29 個体となった。

胃内容物調査

牟岐地区で漁獲されたイセエビ 50 個体について胃内容物の調査を行った。その結果，全ての個体について胃内容物が認められた。腹足類，節足動物，環形動物を捕食した個体が多くみられた。

フィロゾーマ幼生採集調査

本県沿岸域及び沖合域に調査定点を設け，調査船による定期的な採集調査を行った。本年度は 13 個体(イセエビ属フィロゾーマ幼生 10 個体，セミエビ属フィロゾーマ幼生 3 個体)を採集した。

漁獲実態調査

主要漁獲地区において漁獲実態調査を行った。9 月，10 月の解禁直後の漁獲量は平年の 7 割ほどであった。